

ティーチング・ステートメント

所属 工学部都市環境学科
名前 今野 克幸
作成日 2021年3月17日

【責任】

工学部都市環境学科に所属し、専門科目である「コンクリート工学」を中心に、教育・研究活動を行っている。主な教育活動はコンクリート工学分野の関連科目（コンクリート工学・環境と材料・建設材料実験）の他、橋梁工学・設計演習Ⅰの担当と卒業研究指導である。

また、クラス担任として履修指導、授業の受け方の指導の他、成績不振者への対応をしている。

【理念】

一般に、いかなる分野においても、一線級で活躍するためには、まず“型”を身につけることが必要である。特に、当学科からの卒業生の多くが就職するゼネコン・建設コンサルタントといった職種では、公共事業を扱うため、構造物の性能評価においては定められた安全率があり、書類の提出においては決まった書式にしたがうことが必須の場合がある。

一方で、規模の大きな事業を担当するためには、他者（他社）と異なる技術的な提案、つまり“オリジナリティー”が求められる。“型”と“オリジナリティー”は一見、相反するものに見えるが、各種分野の一流の人材が持っているオリジナリティーは、“型”の修得の上に成り立っている。すなわち、大学においては仕事の“型”を身につけてもらうことに主眼を置く。そして、将来的に“オリジナリティー”を発揮できるように、自分の考えを持つことを忘れないことが大事であると考え。

【方針・方法】

以上の理念を実現するために、以下の方針・方法を取り入れている。

● 基礎知識を確実に身につける

座学の講義（コンクリート工学・環境と材料・橋梁工学）では、ほぼ毎回、授業の最後に小テストを行う。小テストは最低限必要な内容とし、次の授業の冒頭で解答と解説を行う。

● 実務において最低限求められることを習慣化する。

実験科目では、実務に倣ってチームで作業を行うことが多い。そのため、遅刻は厳禁としている。そして、安全に作業を行うために、作業着の着用を義務付けるなど、服装について指導している。また、実験科目と演習科目では、レポート等の成果物の書式を教員側が設定している。特に、演習科目では、Wordを用い、決められた書式によってレポートを作成できるよう指導している。

● 自由な発想を示す。

教員が用意したテーマに沿って、プレゼンテーションを作成し、授業において発表してもらう。書式を与えずに見本を示す程度にとどめ、自由に発表してもらう。

また、授業中にできるだけ学生に質問するようにしている。質問に対する回答が、講義で教えた内容に照らし合わせて誤りであっても否定せず、自分の考えを述べやすい環境づくりを心掛けている。

● 授業内容に興味を持ってもらう。

教科書に無い、オリジナルの内容を授業に組み入れて（シラバスおよび講義資料 参照）、好奇心を持って授業に臨んでもらいたい。それとともに、“型”つまり、基礎の修得の上に“オリジナル”が成り立つことを自ら実践して示す。

【成果・評価】

● 「コンクリート工学」は学科専門科目の中では、授業改善アンケートの評価が比較的高かった。

● 「建設材料実験」では、遅刻者がいない。

● 「建設材料実験」では、安全に作業するための服装について、ルールを破った学生がいない。

- 2020 年度は「設計演習 I」での成果物の提出率が大きく向上した（提出された成果物 参照）。

【目標】

短期目標として、
2022 年度までに、「環境と材料」でプレゼンテーションを取り入れたい。担当している座学の内、現在プレゼンテーションを取り入れているのは「橋梁工学」のみである。